

3 取組体制等

3-1 行政機関内の連携体制

環境と経済の調和した持続可能な小規模自治体モデル都市を目指し、市長を推進本部長とする「環境モデル都市推進本部」により市内の連携を図りながら、環境モデル都市推進課を中心に地球温暖化対策を推進していく。

また、公共施設においては、水俣市環境 ISO マネジメントシステムを活用し、各部署・施設において省エネ・省資源対策を推進する。

3-2 地域住民等の連携体制

市民の代表者から構成される「水俣市環境モデル都市推進委員会」及びその実行組織である「円卓会議（部会・プロジェクト）」を組織し、そのメンバーが中心となり、市内の各種団体の協力を得ながら取り組みを推進していく。

また、水俣市のオリジナル環境 ISO の仕組みを活用し、市内小中学校・高校、家庭等においても省エネ・省資源対策を推進する。

3-3 大学、地元企業等との知的資源の活用

熊本県内の大学である熊本大学や熊本県立大学等と連携し、協力、指導を仰ぎながら、環境モデル都市づくりを推進する。

また、水俣市のオリジナル環境 ISO の仕組みを活用し、エコタウン等を中心とした市内事業所等の協力も得ながら、省エネ・省資源対策を推進する。